

支那事變處理根本方針

(昭和十三年一月十一日  
御前會議決定)

0620

昭和十三年七月十一日 御前會議ニ於テ決定セラレ  
 一月十五日第二段ノ措置ヲ執ルコトニ決定セラル  
 (以下内容別紙第五號(甲)ニ同ジニ付省略ス)

0621

別紙(丙)

御前會議ニ於テ大本營陸軍部トシテノ御報告(草案)  
 本日ノ議題タル支那事變處置ニ關シ大本營陸軍部ト致シ  
 マシテ内閣側ト意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ見解ニ就キ御報告  
 申上ケマス  
 日支兩國ハ先ツ國防上大局ノ見地ニ鑑ミマスルモ相立ニ衷心ヨリ  
 道義的ノ親善提携ヲ必ススル間柄ヲコサリマシテ更ニ我國是ニ  
 基ク兩國國交ノ大進ニ圖シマスルトキハ益々其必要ヲ感スルノテ  
 コサリマス  
 此見地ニ基キ内閣側ト種々意見ノ交換ヲ重ネマシタ結果只今外務  
 大臣ヨリ御報告ニ及ヒマシタ方針ニ關シ幕僚部トシテハ次ノ趣  
 旨見解ニ基キ意見ノ一致ヲ見ルニ至リマシタ次第ヲコサリマス  
 今次支那事變ノ解決ヲ契機トスル日支兩國ノ國交恢復ニ方リマシ  
 テハ從來ノ國交ニ一大轉換ヲ圖シマシテ東亞ニ於ケル兩國カ過去  
 一切ノ相怨ノ因果ヲ清算シ道義的基礎ノ上ニ衷心ヨリスル善隣友  
 好互助共榮ノ實ヲ擧ケ協同シテ東洋ノ平和ヲ確保シ其道義文化ノ  
 維護與隆ヲ圖リ延イテ世界ノ平和ニ貢獻スルコトヲ主眼トスヘキ  
 モノテアリマシテ本件ハ今次事變出奔目的ノ條子ヲ成スモノト信  
 セラレマス例ヘハ一日支兩國間過去一切ノ相怨ヲ一掃シ兩國國交  
 ヲ大乗的基礎ノ上ニ再建シトスルヲ以テ文化提携トシテ懸念ヲ  
 用ヒラレマシタノハ此懸念ヲ意味スルモノト斷斷致シテ居リマス

0622

次ニ媾和ノ條件ハ勝敗及犧牲ノ程度等ニ依リ自ラ善異アルハ避ケ  
 難イ所ト存セラレマスカ前項ノ主眼ニ基キマスレハ此際ノ解決ニ  
 當リマシテモ戰勝國カ敗國ニ對シ過酷ナル條件ヲ強要スルカ如  
 キ心境ハ蓋末モ之ヲ有スヘキニアラストスル根本ノ觀念ニ立脚致  
 シマシテ公明正大ニシテ支那民衆ヲシテ努メテ帝國ノ媾和條件ニ  
 怨恨ヲ懷カシメス且公平ナル第三國ニ對シテモ我眞意ノ存スル所  
 ヲ認識諒解セシムル爲メテ寛大ナルヲ要スヘキモノト思惟致シ  
 テ居リマス  
 唯々支那側爲政者ノ媾和ノ内意及其不信行爲ニ關スル從來ノ經驗  
 等ヨリ固シニ非武裝地帯ノ邊境等必與テハ保障ハ確實ニ之  
 ヲ把握致シマスト共ニ約諾ノ實行ニ伴ヒ之ヲ解除スルコトヲ約シ  
 マシテ爾他ノ媾和條件ト雖然タル區別ヲ設ケ以テ將來ニ於ケル事  
 端ノ再發ヲ防遏シ今次事變ノ尊厳性ヲ意圖アラシメマスルト共  
 ニ爾他ノ媾和條件ヲ努メテ寛大ナルヲシムルコトヲ容易ニシ且支那  
 側ニ對シ將來ニ希望ト光明トヲ與ヘ併セテ今後成ルヘク速ニ而モ  
 誠意アル約諾ノ實行ヲ促進スル等ノ目的ヲ併セ達成スルヲ得策ト  
 スル次第ト存シマス本案ハ基礎條件細目ノ内容カ適正穩健ニ決定  
 サレマスナラヘ正ニ此趣旨ニ合スルモノト見察致シテ層リマス  
 之下併行シ事變解決後ノ國際情勢ノ變轉等ニ備ワル爲メ國家能力  
 中國防力ノ充實整備ヲ必須ノ措置ト致シマス即チ今次事變解決ノ

效果ヲ眞ニ根本的ノモノトシメ得ルヤ否ヤハ寧ロ我方今後ニ於  
 ケル此等ノ措置如何ニ懸ルモノカ大テアルト存シマス寧變カ持久  
 ノ態勢ニ移行致シマスル場合ニハ右ノ充實整備ハ一層促進セラル  
 ヘキモノテアリマシテ本案ハ此等ノ點ニ關シ十分ノ覺悟ヲ表示セ  
 ラレアルモノト幕僚部ハ見解致シテ屬リマス  
 尙大本營陸軍幕僚部下致シマシテハ事變發生當時ヨリ長期ニ昭ル  
 場合ヲ顧慮シ適時持久ノ態勢ニ轉移シ得ル覺悟般ノ準備ヲ整ヘッ  
 ツアリマスルカ前述我國防上ノ大局的見地、我國是ニ基ク日支國  
 交ノ大道綫以外ニ於テモ純帥ノ立場トシテ支那ニ對スル兵力行使  
 ノ持久戰爭的物資、列強ノ對支援助並帝國ノ對第三國軍備及建設  
 途中ニ在ル滿洲國ノ現狀等ニ精ヘ又統帥部方面ヨリ見タル國際諸  
 情勢、國內及國家權力ノ實情等ニ鑑ミマスレハ今次事變ハ其出兵  
 目的ノ本旨達成ニ遺憾ナキ限り成ルヘク速ニ之ヲ締結ニ導クヘキ  
 モノト存セララルルノテコサリマス加之最近ノ如キ氣運ニ投シ若我  
 出兵目的ニ適スル購和解決ノ成立ヲ見ルコトヲ得マスレハ當ニ帝  
 國ノ爲ノミナラス日滿支三國ノ國力就中國防力ノ適度ノ減耗ヲ防  
 キ防共ヲ容易ニシ帝國カ將來ニ處スヘキ此等ノ充實整備ノ餘力ヲ  
 存セシメ東洋ノ平和ノ爲誠ニ喜ブヘキ所テコサリマス從テ帝國ト  
 シテハ目下ノ時期ニ於テハ尙先ツ此目的ノ爲新職階階上ニ於ケル  
 諸般ノ措置ヲ統合シテ精慮スヘキモノト考ヘ本案ヲ以テ此趣旨ニ  
 合スルモノト解シ同意致シマシタ次第テコサリマス

## 別紙第五號(丁)

軍令部總長官殿下御口述覺(草案)

本方針ニ對シマシテハ異存アリマセヌ、又參謀總長ノ述ヘラレ  
 マシタ所見ノ主旨ニハ同感テアリマス、尙本方針ニ基キ實行スヘ  
 キ條項ノ第三即  
 本專變ニ對處シ國際情勢ノ變轉ニ備ヘ前記方針ノ貫徹ヲ期スル  
 爲國家總力就中國防カノ急速ナル培養整備ヲ促進シ第三國トノ  
 友好關係ノ保持改善ヲ計ルモノトス  
 ハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來ラサル場合ハ勿論和ヲ求ムル場合  
 ニ於キマシテモ今後ノ國際情勢カ益々機微ナラムトシマスル場合  
 特ニ重要テアルト認メマスカラ各部協力一致シテ極力之カ實現ニ  
 邁進スルノ要アルモノト認メテ居リマス

0625

別紙(五)

御前會議ニ於ケル意見陳述ノ要旨(平沼樞府議長)  
 意見ヲ申上マス唯今當局大臣ノ説明ヲ聽キ尙ホ開會前疑問ノ存  
 スル所ヲ當局大臣ニ質シ其ノ辨明ヲ聽キ本案ノ趣旨ヲ領承致シマ  
 シテ之ニ贊意ヲ表シマス又此ノ席ニ於テ參謀總長殿下並ニ軍令部  
 總長殿下ノ御示シニナリマシタル點ニ付キマシテハ全ク意見ヲ同  
 ク致シマス此ノ案ニ付テハ異議ハ御座リマセヌガ此ノ案ノ本旨ヲ  
 遂行スルニ付深く考慮スヘキ點アリト信シマスルガ故ニ之ヲ述ヘ  
 テ責任アル當局者ノ注意ヲ喚起致シ度ク存シマス  
 支那事變起リテヨリ當局者カ是迄克ク聖旨ヲ奉シテ其ノ任務ヲ  
 遂行セラレタコトハ深く感謝スル所テ御座リマスカ今後ニ於キマ  
 シテハ是迄ヨリ一層事ノ困難ナルコト從テ責任ノ益々重キヲ加  
 ヘルコトヲ痛感致シマス殊ニ善後ノ處理宜シキヲ制スルコトニ深  
 ク留意スルコトヲ切望セサルヲ得マセヌ、善後ノ處理トシテハ上  
 下心ヲ一ニシテ中正ナル途ヲ講シ國威ヲ宣揚スルト共ニ信ヲ外  
 ニ失ハス世界平和ノ基礎ヲ確立セネハナリマセヌ當局ノ立案ハ此  
 ノ見地ニ立脚シテ居ルコトハ勿論テアルト考ヘマス乍去此ノ案ハ  
 綱領ヲ示シタモノデ御座リマス實際ニ於テ其ノ目的ヲ達スルニハ  
 尙細目ニ涉リテ事ヲ定ムルノ必要ガアリ又之ヲ遂行スルニ當リ幾  
 多考慮ヲ要スルコトガアルト存シマス、嚴ニ過クルコト寬ニ失スルコトハ  
 スルコトガ大切テ御座リマス、嚴ニ過クルコト寬ニ失スルコトハ

何レモ再ヒ亂ヲ生スルノ因ヲ爲スモノト思ヒ得ス  
 本文ニ依レハ支那現中央政府カ和ヲ求メ來リ和議成ルトキハ永  
 グ其ノ地位ヲ認メホナリマセヌ、現中央政府ヲ存置スル場合ニ  
 於テ別紙甲ニ記載スルガ如ク内蒙ニ自治政府ヲ成立セシメ北支ニ  
 特種ノ政治機構ヲ設立スルナラハ現在内蒙並ニ北支ニ事實上存在  
 スル政治機構ハ如何ナル運命ニ立至ルヘキヤ此點ニ付當局大臣ノ  
 辯明ヲ求メタルニ現存スル機構ハ其ノ儘新設セラルヘキ自治政府  
 又ハ政治機構トシテ認ムルノ方針ナリト答ヲ得マシタ案スルニ  
 内蒙並ニ北支ニ現存スル機構ハ皆我方ノ指示ニ依リ其ノ組織ヲ見  
 ルニ至リタルモノテ御座リマス、若シ和議成リタル場合ニ於テ支  
 那中央政府カ之ヲ逆視スルカ如キコトアラハ我ハ信ヲ中外ニ失  
 スルコトハ必然テ御座リマス、素ヨリ事體ノ推移ニ因リ多少ノ變動  
 ハ免ルヘカラサルコトアリマセウカ大體ニ於テ當局大臣ノ答ヲ  
 ルカ如キ趣旨ニ於テ處理スルコトヲ以テ動かサル方針ト爲サヌハ  
 ナラヌコトト考ヘマス

別紙甲ニ依レハ「北支ハ支那主權ノ下ニ於テ日滿支三國ノ存在  
 共榮ヲ實現スルニ適當ナル機構ヲ設立シ之ニ廣汎ナル權限ヲ賦  
 シ特ニ日滿支經濟合作ノ實ヲ舉クルニテアリ」ト記シテサリマ  
 スルニ此ノ機構ヲ設立スルノ目的ハ三國ノ經濟合作ノ實ヲ舉クル  
 ニ在ルモ其ノ機構ノ本體ハ一種ノ政治機構テアル存トハ明テ座



リマス而テ此ノ機構ハ内蒙ニ設立セラレヘキ自治政府ト異ナリ中  
 央政府ノ統制下ニ置カルヘキモノデ御座リマス若シ此ノ機構カ一  
 般地方政廳ノ如ク各般ノ事項ニ付キ支那中央政府ノ指揮ヲ受クヘ  
 キモノデアレバ到底所期ノ目的ヲ達スルコトハ出來マセン獨立國  
 家ノ如ク條約ヲ締結スルコトヲ許サザルハ勿論ナルモ少クトモ所  
 定ノ目的ノ爲メニハ中央政府ノ指揮ヲ待タスシテ有效ナル協定ヲ  
 爲シ得ルノ權限ヲ有セシムルコトヲ動カスヘカラサルノ條件トセ  
 ネハナラヌコトト考ヘマヌ此ノ如クナラハ永ク支那ノ内政ヲ拘束  
 スルノ結果トナルモコレハ東洋平和ノ爲メニ已ムヲ得ザルコトト  
 シテ忍ハネバナリヤセヌ  
 本文ノ末項ニ「國民ノ間ニ事變處理根本方針ノ薄旨ヲ徹底セシ  
 ムル様國論ヲ指導ス、對外啓發ニ付亦同シ」トアリマス衆スルニ  
 大方針カ聖斷ニ依リ定マリタル以上ハ國民一人トシテ之ニ異議ヲ  
 唱フルモノナキコトハ明デアリマス輻翼シ國務大臣ハ國民全體ヲ  
 シテ徹底的ニ其ノ趣旨ヲ了解セシムルノ責任ヲ有スルコトハ勿論  
 デ御座リマス若シ此ノ點ニ付萬一ノ失アルトキハ國民ノ間ニ疑惑  
 ヲ生シ思ハサルノ結果ヲ生スルノ恐ナシト斷言スルコトハ出來マ  
 セヌ人心ヲ中正ニ導クコトハ最モ大切ナルコトデアリマス古來  
 ノ爲政者ノ最モ難シタル所テ御座リマス此點ニ付國務大臣ノ責任  
 ノ輕カサルコトヲ痛感致シマス

以上當局者ニ望ム所ノ大要ヲ述ヘマシテ意見ノ開陳ヲ終リマス

附記

(左記ハ前記要旨手交ニ當リ平沼樞密院議長ヨリ堀内次官ニ述ヘタル趣旨ナリ)

御前會議議題ヲ受領シテヨリ會議マテノ間十分時間ノ餘裕ナカリシ爲メ御前會議ニ於テ自分ノ意見ヲ陳述スルニ當リテハ單ニ其ノ要旨ヲ「メモ」ニ留メ右ニ依リ意見ヲ申述ヘタル次第ニテ其ノ後前記要旨ヲ書上ケタルモノナルニ付キ本件書キ物ハ御前會議ニ於テ陳述セル所ト字句ニ於テ必スシモ一致シ居ラサル所アルニミナラズ簡略ニシタル箇所アルモ趣旨ニ於テハ何等變ル所ナシ

實ハ右以外ニモ意見申述ヘタキ點アリタルモ既ニ參謀總長及軍令部總長兩官殿下ノ述ヘラレタル所ト重複スル部分モアリタルニ付キソレ等ノ點ハ自分ニ於テ全然同感ナリト述フルニ止メ繰返シ自分ノ意見ヲ開陳スルコトハ之ヲ差控ヘタリ

帝國政府聲明

(昭和十三年一月十六日)

帝國政府は南京攻略後尙支那國民政府ノ反省ニ最後ノ機會ヲ與フル爲今日ニ及ベリ、然ルニ國民政府ハ帝國ノ眞意ヲ解セズ漫リニ抗戰ヲ策シ、内民人塗炭ノ苦ミヲ察セズ、外東亞全局ノ和平ヲ顧ミル所ナシ、仍テ帝國政府ハ爾後國民政府ヲ對手トセズ、香帥ト眞ニ提携スルニ足ル新興支那政權ノ成立發展ヲ期待シ、是ト兩國國交ヲ調整シテ更生新支那ノ建設ニ協力セントス、元ヨリ帝國カ支那ノ領土及主權並ニ在支列國ノ權益ヲ尊重スルノ方針ハ毫モカハル所ナシ、今ヤ東亞和平ニ對スル帝國ノ責任愈々重シ

政府ハ國民カ此ノ重大ナル任務遂行ノ爲一層ノ發奮ヲ冀望シテ止マズ

## 北支政務指導要綱

## 其一、方針

一、北支政務指導ノ要ハ作戰地後方地域（冀東ヲ含ム以下同シ）ニ於ケル各般ノ政務事項ヲ統合指導シ該地域ヲシテ自滿支提携共榮實現ノ基礎タラシムルニアリ

## 其二、要領

一、政務指導各般ノ處理ハ敵國占領ノ精神ヨリ脱却シ將來ノ長計ヲ考慮シ地方固有ノ社會組織並習俗ハ成ルヘク之ヲ存置指導スルコトニ努メ且軍隊對住民ノ關係ハ特ニ之ヲ圓滑ニ調整スルモノトス

二、作戰地後方地域ノ政治機關ハ住民ノ自主的發生ニ基クモノトシ其機構運營亦住民ノ積極的參贊ニ據ル

三、冀東政權ハ特ニ其内部ヲ刷新合理化スルモノトス  
三、前項地域ノ經濟開發ハ差當リ冀東地區ヲ主トシ冀東政權ヲ内面的ニ指導シテ之ヲ行フ

而シテ經濟開發實施ノ爲ニハ成ルヘク興中公司ヲシテ直接實行若ハ調整ニ當ラシムルモノトス

四、經濟開發ニ關スル具體的事項ハ別ニ連絡ス  
四、現地ノ明朗化ヲ妨害スル不良分子（浮浪人排日及共産分子等）

ハ何レノ國籍人タルヲ問ハス之カ徹底的整理ノ手段ヲ講シ速ニ  
 之ヲ實施スルモノトス  
 之カ實施ハ軍内諸機關、外務官憲及支那側機關相互ノ協力ニ依  
 ル  
 五 住民ノ爲文化的諸施設就中保健醫療施設ノ普及ニ關シ所要ノ措  
 置ヲ講スルモノトス

0632

約逸政府ヲ仲介トスル日支和平交渉経緯(昭和十三年一月二十日)

一、獨逸側ハ豫テヨリ日支間ニ和平交渉ノ餘地アリヤニ付双方ニ對シテ採リテ入レ居タルカ遂ニ客年十二月初旬在京獨逸大使ヨリ國民政府ニ於テハ日本側ト媾和ノ意向アル趣ヲ以テ日支兩國ノ間ニ話合ノ橋渡シヲナスヘキ旨申出アリタルヲ以テ帝國政府ニ於テハ媾和條件ニ付慎重考慮ヲ加ヘタル上客年十二月二十二日在京獨逸大使ニ對シテ帝國ノ媾和ノ基礎條件トシテ左記四條件ヲ提示シテ其ノ内容ヲ説明シ支那側ニ於テ右ヲ總括的ニ承認シ帝國政府ニ和ヲ乞フノ態度ヲ表示シ來ルニ於テハ帝國政府ニ於テモ日支直接交渉開始ノ用意アリ本年一月五日迄ニハ支那側ヨリ回答ヲ期待スル旨ヲ告ケ國民政府ニ其ノ傳達ヲ求メタリ

- 一、支那ハ容共抗日滿政策ヲ放棄シ日滿兩國ノ防共政策ニ協力スルコト
- 二、所要地域ニ非武装地帯ヲ設ケ且該地方ニ特殊ノ機構ヲ設定スルコト
- 三、日滿支三國間ニ密接ナル經濟協定ヲ締結スルコト
- 四、支那ハ帝國ニ對シ所與ノ賠償ヲナスコト
- 五、前記帝國政府ノ媾和基礎條件ハ客年十二月二十六日在京獨逸大使ヨリ國民政府當局ニ傳達セラレタルカ豫定期日ヲ越クルモ容

易ニ回答ニ接セス我方ヨリ獨逸側ヲ通シ數次督促セル處本年一  
 月十三日國民政府外交部長ヨリ在支獨逸大使ニ對シ前記帝國政  
 府ノ要求條件ハ範圍廣汎ニ過クルヲ以テ支那側ニ於テ最後の決  
 定ニ達センカ爲更ニ詳細ナル内容ヲ承知シ度キ旨通報アリタリ  
 トテ翌一月十四日在京獨逸大使ヨリ右ノ次第我方ニ傳達越セ  
 リ然ルニ前記帝國政府購和基礎條件ノ内容ハ各年十二月二十二  
 日以後數次ニ且リ相當詳シク獨逸側ニ内示説明シアリ國民政府  
 ニ於テモ獨逸側ヲ通シ充分之ヲ承知シ居ルモノト認メラレ旁々  
 前記支那側回答ハ購和ニ付何等議意ナク單ニ遷延策ヲ講セント  
 スル趣旨ト認メラレタルヲ以テ帝國政府ニ於テハ本月十五日ニ  
 於テ今後ハ國民政府ヲ對手トスル事變解決ニ期待ヲ懸ケス新興  
 支那政權ノ成立發展ヲ助長シ之ト國交ヲ調整シ更生新支那ノ建  
 設ニ協臨スルコトニ廟議決定シ十六日右趣旨ヲ中外ニ聲明スル  
 ト共ニ在京獨逸大使ニ對シ帝國政府ニ於テハ支那側ノ誠意ナキ  
 態度ニ鑑ミ日支和平交渉ヲ打切ルヘキ旨ヲ通告シ併セテ獨逸側  
 從來ノ好意的終旋ニ絶意ヲ表スル所アリタリ  
 三、尙以上ノ経緯ニヨリ爾後帝國政府ハ國民政府ヲ對手トセサルコ  
 トトナリタル處右ハ事實上今後ハ日支兩國間ノ問題ニ就テハ一  
 切同政府ヲ對手トスル交渉ヲナサス帝國ハ全然帝國獨自ノ立場  
 ニ於テ專断ニ對處セントスルノ趣旨ニシテ所謂國交ノ斷絶若ハ

國民政府ノ否認トモ其ノ趣ヲ異ニスル事質上ノ關係ニ屬スル次第ナルカ一別紙第二號參照一右帝國ノ態度決定ニ伴フ在本邦支那僑外交及領事機關並在留華僑ノ取扱振等ニ付テハ既ニ別紙第一號ノ通之カ處地方針決定ノ上内務大臣宛通報濟ニ付右ニヨリ善處セラレシコトヲ希望ス

0635



別紙第一號

在本邦支那外交機關及華僑處理方針

一 在本邦支那外交機關

外務省ヨリ情況ヲ見テ在本邦支那大使以下ノ外交官及領事館員  
全部ノ本邦引揚ヲ勸告ス

但シ其ノ場合ト雖モ

(イ) 引揚後ハ外交官及領事官ノ特權ヲ認メ其ノ身体財産ニ付テハ  
充分ノ保護ヲナスモノトス

(ロ) 大使館及領事館ノ建物ハ支那新政權ヲ帝國政府ニ於テ承認シ  
右政權ニ於テ之ヲ接收スル迄ハ我方官憲ニ於テ立入ルコトナ  
ク之ヲ保護スルモノトス

(ハ) 我方引揚ノ勸告ニ拘ラス引揚ヲ實行セサル場合ニ於テモ之ヲ  
保護スルコト從前ノ通トシ大使館及領事館ニハ帝國官憲ニ於  
テ無斷侵入シ若シクハ館員ヲ逮捕スルカ如キコトナシ

但シ衣食住以外ノ問題即チ公用ニテ帝國官憲ト接觸スルコト  
ヲ謝絶ス

(ニ) 帝國カ新政權ヲ承認シタル場合ニ於テハ南京政府ノ任命セル  
外交官及領事官ヲ一切退去セシムルモノトス

(ホ) 朝鮮其ノ他ニ於テ支那新政權ノ領事官タル建前ヲ執ルモノニ  
對シテハ敢テ之ヲ干渉セサルモ帝國カ右新政權ヲ承認スル迄

對シテハ敢テ之ヲ干渉セサルモ帝國カ右新政權ヲ承認スル迄

ニ 華 僑

ハ之ヲ領事官トシテ取扱ハサルモノトス

(イ) 殘留華僑ニ對シテハ充分之ヲ保護ス  
(ロ) 華僑ノ新政權ヘノ參加問題ニ關シテハ帝國官憲ニ於テ之ニ關  
與セサルモノトス

0637

別紙第二號

南京政府ヲ相手トセストノ聲明ハ一方ニ於テ新政權ノ樹立及之  
 力承認ニ進ムコトヲ豫告スルト共ニ他方南京政府ヲ無視セントス  
 ルモノニシテ各般ノ複雜ナル情勢ニ即シ政治的考慮ヲ基調トスル  
 モノナル結果其ノ法律的性質ハ必スシモ明確ナリト言フコトヲ得  
 サルモ之ヲ説明スレハ左ノ通ハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ  
 (一) 南京政府ヲ相手トセストハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ

(二) 南京政府ヲ相手トセストノ聲明ハ一方ニ於テ新政權ノ樹立及之  
 力承認ニ進ムコトヲ豫告スルト共ニ他方南京政府ヲ無視セントス  
 ルモノニシテ各般ノ複雜ナル情勢ニ即シ政治的考慮ヲ基調トスル  
 モノナル結果其ノ法律的性質ハ必スシモ明確ナリト言フコトヲ得  
 サルモ之ヲ説明スレハ左ノ通ハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ  
 (一) 南京政府ヲ相手トセストハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ  
 中華民國內閣トシテ承認セラルル以上南京政府ノ組織權限  
 帝國政府カ正式ニ承認シタル後ニ非レハ之ヲ行フコト法律上妥  
 當ナシサルヘキヲ以テ法律論トシテハ南京政府ヲ相手トセスト  
 ノ聲明ヲ以テ直チニ南京政府ノ法律上ノ否認ナリト言フコトヲ  
 得ス尤モ右聲明ハ南京政府ヲ無視セントスル聲明ナルヲ以テ  
 事實上又ハ政治上ハ同政府ノ否認ニ類スルモノト言フコトヲ得  
 南京政府ヲ相手トセストノ聲明ハ一方ニ於テ新政權ノ樹立及之  
 力承認ニ進ムコトヲ豫告スルト共ニ他方南京政府ヲ無視セントス  
 ルモノニシテ各般ノ複雜ナル情勢ニ即シ政治的考慮ヲ基調トスル  
 モノナル結果其ノ法律的性質ハ必スシモ明確ナリト言フコトヲ得  
 サルモ之ヲ説明スレハ左ノ通ハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ  
 (一) 南京政府ヲ相手トセストハ法律上ハ南京政府ノ否認トハ區別セ

0638

1。國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ト必スシモ同一視シ得サル理

(イ) 由右理由ノ主タルモノ左ノ如シ。南京政府ヲ無視セントスル意思、國交斷絶又ハ外交關係ノ

斷絶ハ相手國政府ノ資格ノ承認ヲ前提トスルコト勿論ニシテ例ヘハ開戦ニ依ル國交斷絶ノ場合ニ於テモ相手國政府ノ

資格ヲ云々スルコトハ無之ヲ常トスルニ反シ今次聲明ハ南京政府ヲ對等ノ相手方ト認メサルノ意思即チ事實上ノ否認

ノ意思ヲ基調トスルモノナル點ニ於テ必スシモ通常ノ國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ト同一視シ得サルヘキナリ。

(ロ) 法律上ノ效果 國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ場合通常其ノ當然ノ法律上ノ效果トシテ外交使節ノ召遣外國使節ノ退

去要求等ノ問題ヲ生スルニ反シ今次ノ場合ハ南京政府ヲ相手トセサル意思ニ基キ使節ノ召遣等ヲ先ツ行ヒ其ノ結果ト

シテ事實上國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ事態ヲ生スルモノナルコトナリ。

(ハ) 形式上ノ相違 前述ノ事情ノ結果使節ノ召遣其ノ他ノ形式モ通常ノ國交斷絶又ハ外交關係ノ斷絶ノ場合ト同一ナラサルモノナリ。之ヲ例示スレハ(イ)駐支帝國大使ハ之ヲ召遣スルモ代理大使以下ノ館員及領事官ヲ召遣シ(ロ)駐京支那大使(館員ヲ含ム)ニ退去ヲ要求セス其ノ自發的退去ヲ勸告シ

0639

2

(ハ)右勸告ニ從ハス退去ヲ肯シセサル場合ニモ之ニ從前通ノ  
 保護ヲ與ヘ(ニ)領事官ニ付テモ同様ノ待遇ヲ與フルコトノ諸  
 點ノ如キハ之ナリ。  
 大體前述ノ如キ諸點ニ付キ今次ノ聲明ハ國交斷絶又ハ外交  
 關係ノ斷絶ト必スシモ同一視シ得サルモノアルモ兩國間ノ紛  
 争ニ基キ兩國使節ノ召還及退去、之ニ伴ヒ外交上ノ關係ノ斷  
 絶セラルル事態ヲ生スルモノナルヲ以テ事實上國交斷絶又ハ  
 外交關係ノ斷絶ニ近似スルモノト言フコトヲ得ヘシ。

0640

北支及中支政權關係調整要領

昭和十三年四月十六日  
閣議決定

第一 方針

中支新政權ハ一地方政權トシテ之ヲ成立セシメ中華民國臨時政府  
ヲ中央政府トシテ成ルヘク速カニ之ニ合併統一セシム

第二 要領

一、中支新政權ハ其成立宣言ニ所要ノ修正（北支及中支兩政權當時  
者ノ協議セルモノ）ヲ行ヒ之ヲ成立セシム  
二、中支新政權ハ成ルヘク速カニ之ヲ中華民國臨時政府ニ合併統一  
セシム

是ガ爲メ中支新政權機構組織ハ前項ノ合併統一ニ支障ヲ來サザル  
様具現セシメ又中支ニ於ケル海關、統稅局、鹽務局（共ニ主要  
人事ヲ念ム）等ニ對スル措置ハ合併前ニ於テモ地方的情勢ヲ考  
慮ノ上中華民國臨時政府ノ統制ノ下ニ之ヲ行ハシム  
三、兩政權合併ノ爲速カニ双方ノ支那代表ヲ彙メ協議會ヲ開カシ  
ム

四、車外外交財政金融經濟交通通信郵務文化及思想對策等ニ關シテ  
ハ北支中支間ニ矛盾ナカラシムル機指導ス

一、北支及中支政權關係調整領ニ關スル諒解事項  
 第一方針中ニ所謂中華民國臨時政府ヲ中央政府トストノ暫ハ支  
 那ニ於ケル各地政權指導上ノ原則トシテ規定セルモノニシテ帝  
 國力之ヲ支那ノ中央政府トシテ承認スル問題ニ關シテハ別個ノ  
 考慮ニ依リ決定スヘキモノトス  
 二、第二要領ノ二段北支臨時政府ニ合併統一ノ場合ニ於ケル首都  
 ノ選定ハ專ラ支那側ノ考慮ニ委スルモノトス  
 三、中支ノ通貨及金融ニ付テハ北支ト統一ノ處置スヘキコトヲ根  
 本方針トスルモ之ヲ直チニ實行スルニ適當ノ時期ニ於テ行フモ  
 ニ顧ミ今後充分ニ實情ヲ見究メタル上適當ノ時期ニ於テ行フモ  
 ノトス  
 從ツテ例ヘハ中國聯合準備銀行券ヲ中支ニ流通セシムヘキヤ或  
 ハ先以テ中文ニ於ケル通貨ヲ整理シ然ル後北支長中支ノ通貨政  
 策ノ調整ヲ圖ルヤ等ノ問題ハ今後充分考究ノ上之ヲ決定スルモ  
 ノトス

0642

帝國政府聲明

(昭和十三年六月二十三日)

支那專變ハ徐州陥落ニヨリ戰局ノ一大進展ヲ見タルモソノ前途ハ尙遠ナリ、第三國ノ支援ヲ頼ミ長期抵抗ヲ標榜スル國民政府ノ徹底的潰滅ノタメ兵力ハ逐次増強セラレ今ヤ我國有史以來ノ作戦ハ陸海空ニ奮戦ヲ重ネツツアリコノ時ニ當リ戦後施設ニヨリ行動ニ支障ナカラシメテ帝國所期ノ目的ヲ達成セシメ東洋永遠ノ平和ヲ確立セシメテハ刻下凡百ノ施設ヲ戰争目的貫徹ニ集中シ官民一體長期持久ノ戰體ヲ確立シ以テ時局ニ對處セザルベカラズ、コレガタメ當面ノ急務ハ物資ノ調整ヲ最モ有効ニシテナラシムルニアリ、即ち萬難ヲ排シ輸出ノ振興、生産ノ増加、配給、消費ノ統制ニ關スル政策ヲ徹底シ、軍需品及民生必需品ノ原料充足ヲ優先トス、茲ニオイテ政府ハ新專態ニ即應シ、軍需品及民生必需品ノ先トスル徹底實行ヲ期シ、以テ國防ノ安固、國民經濟ノ維持ヲハカルコトニ決セリ、軍需資材ノ供給確保、輸出ノ振興及民生爲替相場ノ維持、現在以上ノ物價騰貴ヲ抑スルニ必要ナル措置ヲ活維持ノタメ、現格又ハ公道價格ノ設定等ノ外、消費節約及講ズル共ニ基準價又ハ公道價格ノ設定等ノ外、消費節約及一般配給統制ヲ基盤強化シ、物價ノ引下ヲ行フ、輸入物資ニツイ

0643



- 一、輸出増進ノタメ綜合計畫ノ下ニコレガ一般的促進策ヲ強化スル
- 二、テハ必要ニ應ジ使用制限乃至禁止、代用品使用強制等ノ方法ニ
- ヨリ國內不急用途ニ對スル物資ノ消費節約ヲ徹底強化スルコト
- 三、製造ノ輸出トソノ原料材料ノ輸入トヲ一リシムル等
- 四、輸入原料材料ニツキコレヲ國內消費用ト確保スルコト
- 五、主要物資ニツキ輸入及ビ配給ノ適正劃滑ヲハカルタメ配給制度
- 六、貯蓄ノ普及徹底ヲハカルコト
- 七、官民一體簡素ナル非常時國民生活様式ノ確立ニ努ムルコト
- 八、主要物資ノ増産殊ニ穀産ノ増加ニツキ徹底的措置ヲ講ズルコト
- 九、車需工業能力増進ノタメ交替制ノ採用及ビ勞務者ノ急速充足ニ
- 十、ツキ必要ナル措置ヲ講ズルコト
- 十一、廢品回收ノタメ從來ノ業者ノ外各種團體ノ協力ヲ求めテソノ組
- 十二、織化ヲハカルコト
- 十三、轉業及ビコレニ伴フ失業者救済ノタメ必要ナル方策ヲ講ズルコト

今後ノ支那事變指導方針

(昭和十三年六月二十四日  
五相會議決定)

一 支那事變ノ直接解決ニ国力ヲ集中指向シ概ネ本年中ニ戰爭目的ヲ達成スルコトヲ前提トシ内外諸般ノ施策ヲシテ總テ之ニ即應セシム

二 第三國ノ友好的橋渡シハ條件次第ニテ之ヲ受諾スルヲ妨ケス

0645

支那現中央政府屈伏ノ場合ノ對策

(昭和十三年七月八日  
五相會議決定)

第一方針

支那現中央政府ニシテ屈伏シ來リタル場合ニ於テハ帝國ハ之ヲ一  
政權トシ一新興支那中央政府ノ傘下ニ合流セシムルトノ御前會議  
決定方針ニ基キ處理ス

第二要領

- 一 帝國ハ事變解決ニ關スル既定方針ヲ堅持シ支那現中央政府ヲ相  
手トシテ日支全面的關係ノ調整ヲ行フコトナシ
- 二 支那現中央政府ニシテ屈伏シ且後述第三ノ條件ヲ受諾シタルト  
キハ之ヲ友好一政權トシテ認メ既成新興支那中央政府ノ傘下ニ  
合流セシムルカ又ハ既存ノ親日諸政權ト協力シテ新ニ中央政府  
ヲ樹立セシム
- 三 既成新中央政府トノ合流、新中央政府ノ樹立等ハ主トシテ支那  
側ヲシテ行ハシムルモ帝國之ヲ内面的斡旋ス
- 四 合流若クハ新中央政府樹立ニ參加スルコト  
ニ右ニ伴フ舊國民政府ノ改稱及改組
- 五 抗日容共政策ノ放棄及新日滿防共政策ノ採用
- 六 蔣介石ノ下野

第四節 停戦

→ 支那現中央政府ノ屈伏ノ事實ヲ認定シ得ルニアラサレハ停戦等  
ハ議セス  
但シ停戦ヲ議スル場合ニ於テハ其條件ハ別ニ考究ス

0647

支那現中央政府ニシテ屈伏セサル場合ノ對策

昭和十三年七月八日  
五相會議決定

第一、方針  
帝國ハ愈々國力ヲ統合シ作戰、内戰、外交、經濟、謀略、宣傳等  
國家一切ノ努力ヲ舉ケテ支那現中央政府ノ潰滅若クハ屈伏ニ集中  
スルト共ニ長期戰ニ應スル現下必須ノ諸政策ヲ強化シ以テ形而上  
下ヲ通シ眞ニ戰時態勢ヲ實現セシム

第二、要領

一、要衝占據迄ノ對策  
支那ノ大勢ヲ制スルニ足ル要衝ノ占據ヲ目標トシ努メテ間隙  
ナカラシムル如ク積極作戰ヲ指向シ遠征セル敗戰感殊ニ其中  
原喪失ニ依リ支那現中央政府ノ自護作用ト繼續戰意志ノ放棄ト  
ヲ誘導ス

二、作戰ノ進展ニ伴ヒ

政治、經濟、外交、思想等ノ各般ト互リ益  
々謀略ヲ強化シテ親日反共諸勢力ノ助成ニ努ムルト共ニ抗日  
勢力内部ノ切り崩シト和氣分ノ醸成及財政經濟基礎ノ破綻  
ヲ策シ以テ成ルヘク迷るニ支那現中央政府ノ分裂崩壞少クモ  
其局地政權ヘノ傳落ヲ勢ス  
右施策 帝國自ラ行フ外特ニ暴國前ニ親日黨部諸政權棄絶ヲ

指導シテ之ヲ行ハシム

3 親日薩政權ヲ擴大強化スルト共ニ成ルヘク速クニ是等政權ヲ  
 聚大成シテ一政權ニ統合セシメ眞ニ支那中央政府ニ代ル新政權ヲ  
 舉ケシメ以テ内外ヲシテ現實ニ支那現中央政府ニ代ル新政權ヲ  
 トシテ認メサルヲ得サルニ至ラシム

4 帝國ノ新中央政府繼承ハ一ニ當時ノ情勢ニ依ルモ該政權ヲ中  
 央政府ノ實ヲ備フルニ至ラハナルヘクカニ行フ

列國ノ利益ハ務メテ之ヲ尊重シ好シク彼等ト學ヲ構フルカ如  
 キ態度ハ避クルモ強力明快ナル事變處理ノ斷行ニ依リ列國ヲ  
 シテ我對支政策ヲ專實上了得セシメ彼等ノ既得權益ノ保持増  
 進上自ラ我態度ヲ支持スルソ已ムヲ得サルニ至ラシメ以テ支  
 那現中央政府ノ孤立化ヲ策ス

要衝ヲ占據スルモ支那現中央政府ニシテ尙屈伏セサルトキハ帝  
 國ハ爾後直接武力ニヨル早急ナル事變解決ニ焦慮スルコトナク  
 益々新中央政府ノ擴大強化ヲ促進スルト共ニ政治、外交、經濟  
 思想的ニ支那現中央政府ヲ感々壓縮スル等トシテ政略、謀略  
 ノ運営ニヨリ支那現中央政府ノ浸滅ヲ計ル

要衝ヲ占據スルモ支那現中央政府ニシテ尙屈伏セサルトキハ帝  
 國ハ爾後直接武力ニヨル早急ナル事變解決ニ焦慮スルコトナク  
 益々新中央政府ノ擴大強化ヲ促進スルト共ニ政治、外交、經濟  
 思想的ニ支那現中央政府ヲ感々壓縮スル等トシテ政略、謀略  
 ノ運営ニヨリ支那現中央政府ノ浸滅ヲ計ル

要衝ヲ占據スルモ支那現中央政府ニシテ尙屈伏セサルトキハ帝  
 國ハ爾後直接武力ニヨル早急ナル事變解決ニ焦慮スルコトナク  
 益々新中央政府ノ擴大強化ヲ促進スルト共ニ政治、外交、經濟  
 思想的ニ支那現中央政府ヲ感々壓縮スル等トシテ政略、謀略  
 ノ運営ニヨリ支那現中央政府ノ浸滅ヲ計ル

差當リノ對英外交方針

(昭和十三年七月八日  
五相會議決定)

- 一、英國ニ對シテハ彼ノ援將政策ヲ放棄セシムル爲テ帝國ノ公正ナル態度ヲ事實上ニ諒解セシムルヲ要ス
- 二、從來ノ懸案ニ就テハ具體的ニ調査ノ上前方針ニ基キ逐次之ヲ速カニ處理ス

0650

時局ニ伴フ對支謀略

昭和十三年七月十二日  
五相會議決定

敵ノ抗戰能力ヲ崩壞セシムルニ  
蔣介石ヲ失脚セシムル爲メ  
其ノ要綱左ノ如シ

要領

- 一、支那一流人物ヲ起用シテ支那現中央政府並支那民衆ノ抗戰意識ヲ弱化セシムルト共ニ鞏固ナル新興政府成立ノ氣運ヲ醸成ス
- 二、維新ノ懷柔歸服工作ヲ促進テテ敵ニ反將ノ分裂弱化作圖ル
- 三、反將系實力派ヲ利用操縦シテ敵中ニ反將ノ反共、反戰政府ヲ樹立セシム
- 四、回教工作ヲ推進シ西北地方ニ回教徒ニ依ル防共地帯ヲ設定ス
- 五、法幣ノ崩落ヲ圖リ支那在外資金ヲ取得スルコト等ニ依リ支那現中央政府ヲ財政的自滅セシム
- 六、右諸工作ノ遂行ヲ容易ナラシムル爲メ所要ノ謀略宣傳ヲ行フ
- 備要領第五項ニ對シテ研究ヲ進ス

0651



訂 正 事 項

(昭和十三年七月廿二日  
五 相 會 議 決 定)

- 一、時局ニ伴フ對支謀略中第五項ノ一法幣ノ崩落ヲ圖リ一ヲ削除ス
- 二、支那新中央政府樹立指導方策ノ別紙支那政權内面指導大綱中第五項ヲ削除シ第六項ヲ第五項トス
- 三、經濟・交通及救済ノ第五項ヲ削除シ第六項ヲ第五項トス

0652

英獨大使ノ和平斡旋申込ニ對スル態度

(昭和十二年七月十二日  
五相會議決定)

英 大 使

一 應 機 曲ニ斷ハル然シ手ハ切ラヌ  
「威重カ認メラレヌ故暫ク靜觀スル」

獨 大 使

一 應 話ヲ聞キ取ル  
時局ニ伴フ支謀略ノ要領第五項ニ對シテハ尙研究ヲ繼續ス

0653

支那新中央政府樹立指導方針

昭和十三年七月十五日  
五相會議決定

- 一、支那新中央政府ハ單ニ今次事變處理ニ關スル支那側當事者タルニ止ラシムルコトナク日支ノ國交ヲ過去一切ノ相剋ヨリ脱却シテ大衆的見地ニ於テ善隣タルノ基礎ヲ確立セシムル爲メ支那新中央政府ヲ樹立ス
- 二、支那新中央政府ノ樹立ハ主トシテ支那側ヲ行ハシムルモ帝國之ヲ内面的斡旋シ其ノ政治形態ハ分治合作主義ヲ採用ス
- 三、成ルヘク速カニ先ツ臨時及維新兩政府協力シテ聯合委員會ヲ樹立シ次テ蒙藏聯合委員會ヲ之ニ聯合セシム
- 四、爾後右諸政權ハ逐次諸勢力ヲ吸收又ハ此等ト協力シテ眞ノ中央政府ヲ築大成セシム
- 五、漢口陷落シ解政權カ一地方政權ニ轉落スルカ若クハ蔣下野、現中央政府改組ノ事起スル迄新中央政府ヲ樹立セス
- 六、漢口陷落後將政權ニ分裂改組等ヲ見サル場合既成政權ヲ以テ新中央政府ヲ樹立ス
- 七、府政權ニ分裂、改組等ヲ見親日政權出現シタル場合之ヲ中央政府組織ノ一分子トナシ中央政府樹立ニ進ム
- 八、新中央政府承認ノ時機ハ第四項ノ改組(分裂)政權ニシテ停戦

Q654

擔當者ヲ得ル場合若クハ第三項統一政權カ中央政府タルノ實ヲ  
備フルニ至リタル場合ト豫定ス

六、支那新中央政府樹立工作ニ伴フ日支關係ノ調整及記ニ準據ス

其具體的事項ハ別ニ定ム  
新日支關係設定ノ爲調整、締約セラルルヘキ重要事項概ネ左

ノ如シ

(イ) 北支資源利用開發

(ロ) 北支及揚子江下流域ニ於ケル日支強度結合地帯ノ設定

(ハ) 北支及揚子江下流域ニ於ケル特殊地位ノ設定

(ニ) 南支沿岸諸島ニ於ケル特殊地位ノ設定

(ホ) 互惠ヲ基調トスル日滿支一般提携就中善隣友好、防共共同

防衛、經濟提携原則ノ設定

以上ノ目的ヲ達成スル爲所要ノ期間帝國ノ内面指導ヲ行フ

2、内面指導ノ爲ノ基準、別紙第一「支那政權内面指導大綱」

ノ如シ

第三、聯合委員會ノ機構及組織

一、臨時、維新兩政府及蒙疆聯合委員會ヨリ成ル聯合委員會（以下

聯合委員會ト稱ス）ノ機構概ネ左ノ如シ

二、聯合委員會ハ臨時、維新兩政府及蒙疆聯合委員會ノ代表者

ヲ以テ組織スル簡素ナル委員制トシ差當リ北京ニ置ク

0655

- 2、各地方政權ノ境界ハ差當リ概ネ現在ノ儘トス
- 3、北支、中支、蒙疆等ノ各地方政權ハ各其特殊性ニ即應スル廣汎ナル自治ヲ行ハシム
- 4、聯合委員會及地方政權ノ權限ハ前項ノ趣旨ニ基キ別ニ研究スルモ交通、通信、郵務、金融、海關、統稅、鹽稅、文教及思想對策等ノ共通事項ニ關シテハ聯合委員會ノ所要ノ統制下ニ地方政權ヲシテ行ハシムルモノトス
- 5、治安維持ニ關シテハ聯合委員會統制ノ下ニ地方政權之ニ當ル
- 6、外交ニ關シテハ當分ノ間共通外交事項ハ聯合委員會ノ權限トシ局地的關係事項ハ各地方政權ヲシテ處理セシム

0656

支那政權内面指導大綱

昭和十三年七月十九日  
五相會議決定  
昭和十三年七月二十二日  
五相會議決定(一部修正)

方針

帝國ノ支那政權内面指導ノ目標ハ現事變ノ解決ニ裨益スルト共ニ日支兩民族ノ提携ヲ促進シ日滿兩國ノ不可分の善隣關係ノ確立ト相俟テ我國防國策ニ投合スルニアリ  
之カ爲抗日思想瀾漫セル現狀ニ對シテハ威力ヲ背景トシテ局面ヲ打開スルトモニ國民經濟ヲ向上シテ人心ヲ收攬シ東洋文化ヲ復活シテ指導精神ヲ確立シ威威併用ヒテ一般漢民族ノ自發的協カヲ促スモノトス

要領 第一、軍事

一、支那軍ノ投降ヲ促進シテ之ヲ懷柔歸順セシムルト共ニ其反將反共意識ヲ暢達シテ新政權ヲ支持シ成ルヘク多數ノ支那軍ヲ以テ抗日容共軍潰滅ノ爲日本軍ニ協力セシムル如ク努メ以テ民族的相剋ヲ主義的對立ニ誘導ス  
二、我占領地ノ海港及鐵道水路等交通ノ要衝並主要資源ノ所在地等必要ノ地點ニ所要ノ日本軍ヲ駐屯シ併所地方ニハ支那武裝團體ヲ組織シテ治安ノ確保ニ當ラシム  
其兵力量ハ各地ノ實情ニ適合セシムル如ク決定スルモノトス

0657

- 三、防共軍事同盟ヲ締結シテ日本軍ノ指導下ニ漸次軍隊ヲ改編シ情勢之ヲ許スニ至レハ國防上必要ナル最少限度ニ裁兵ス
- 二、聯合委員會若クハ新中央政府ノ下ニ北支、中支、蒙疆等各地域毎ニ其特殊性ニ即應スル地方政權ヲ組織シ廣汎ナル自治權ヲ與ヘテ分治合作ヲ行ハシム
- 一、諸政權ノ首腦者以下官吏ハ支那人トスルモ樞要ノ位置ニハ所要ニ應ジ少數ノ日本人顧問ヲ配置シ或ハ日本人官吏ヲ招聘セシメ以テ内面指導ヲ容易ナラシム
- 三、諸政權ヲシテ抗日容共政權ノ打倒崩壞ニ努力シ特ニ反蔣反共分子ヲ招撫シテ彼等ノ内訌ヲ激發セシムル如ク工作セシム
- 四、外交ハ概ネ帝國ノ外交方針ニ追隨シ防共協定ヲ締結セシム
- 一、經濟及交通ノ開發ハ日滿支三國國防ノ確立ニ資スルト共ニ三國經濟ノ發展並ニ民衆ノ厚生ニ遺憾ナカラシム、特ニ所要ノ交通ハ帝國之ヲ實質的ニ把握シ就中北支ニ於テハ國防上ノ要求ヲ第一義トシ中、南支ニ於テハ一般民衆ノ利害ヲ特ニ考慮スルモノトス
- 二、經濟ハ日滿支有無相通ノ原則ニ從テ開發シ三國經濟圈ノ完成ニ邁進ス但シ第三國ノ既得ノ權益ヲ尊重シ或ハ經濟開發ニ參加セ

0658

一、漢民族固有ノ文化就中日支共通ノ文化ヲ尊重シテ東洋精神文明  
 ヲ復活シ抗日的言論ヲ徹底禁壓シ日支提携ヲ促進ス  
 二、諸政權ノ政策遂行ノ爲日支提携實現ノ基調タルハキ主義ヲ確立  
 シ又本主義ノ濫用ヲ爲シメンカ爲民衆團體ノ組織ヲ強化促進ス  
 三、共產黨ハ絕對之ヲ排撃シ國民黨ハ三民主義ヲ修正シテ漸次新政  
 權ノ政策ニ順應スルモノヲシム  
 四、宗教ハ日滿支提携ノ促進ヲ阻礙セサル限り信仰ノ自由ヲ許容ス  
 五、學者ヲ招撫シテ之ヲ保護シ且儒教ヲ振興ス  
 六、實用科學ヲ振興シテ産業開發ヲ容易ナラシム

三、鐵道、水運、航空、通信ハ實質的ニ帝國ノ勢力下ニ把握シ軍事  
 行動遂行ニ遺憾ナカラシムルト共ニ民衆ノ厚生ニ寄與セシム  
 四、在來ノ資本國ヲ剝奪シ諸政權ノ政策ニ協力セシム  
 五、農事ヲ振興シ治水、土木ヲ興シテ一般民衆ノ生活ヲ向上シ特ニ  
 事變中ハ差當リ食糧ノ分配ヲ圓滑ナラシムルコトヲ以テ急務ト  
 ナシ次テ復興ヲ主眼トスル所要ノ救濟事業ヲ行フ  
 一、七月二十二日決定ヲ以テ七月十九日決定ノ「五」ヲ削除シ「六」  
 ヲ「五」ト修正シタルモノナリ

第四、文化、宗教及教育

0659



聯合委員會樹立要綱

昭和十三年九月九日  
五相會議議決

第一、方針

昭和十三年七月十九日五相會議決定支那新中央政府樹立指導方針  
ニ備據シ成ルヘク速ニ聯合委員會ヲ樹立ス

第二、聯合委員會樹立要綱

一、聯合委員會ノ樹立ハ主トシテ支那側ヲシテ行ハシムルモ帝國之  
ヲ内面的ニ斡旋ス

聯合委員會樹立指導ニ關スル現地案決定トハ中央ノ認可ヲ受ケ  
タル後支那側ヲ斡旋スルモノトス

二、聯合委員會樹立指導ニ關スル帝國ノ具体案決定セハ北支及中支  
政務指導機關斡旋ノ下ニ大連ニ準備委員會ヲ開催シシメ聯合委  
員會樹立ニ關スル諸般ノ準備ヲ行ヘシム

三、準備委員會ノ準備ニ基キ北京ニ聯合委員會ヲ開催セシム

第三、聯合委員會ノ組織及權限  
聯合委員會ノ樹立ニ關シ支那側斡旋ノ基準概ネ左ノ如シ

一、聯合委員會ハ臨時政府及維新政府ノ政務ニ關スル共通事項ヲ統  
制シ且新中央政府ノ成立ヲ容易ナラシム

二、聯合委員會ノ組織概ネ左ノ如シ  
(一) 聯合委員會ハ差當リ北京ニ設ク  
(二) 聯合委員會ニ委員六名ヲ置キ臨時及維新兩政府ヨリ各三名ヲ

0660

- 出 内各一名ヲ常任委員トシテ聯合委員會ニ常置ス
- 本會ニ蒙 讓委員會參加ノ場合ハ同會派遣ノ委員二名ヲ増加ス
- (三) 委員中ヨリ主席委員ヲ選出ス
- (四) 主席委員及常任委員ヲ以テ常任委員會トナス
- (五) 聯合委員會ニ事務局ヲ設ケ事務局長(假稱)一名、局員若干名ヲ置ク
- (六) 主席委員ハ委員會ヲ執轄シ且會務ヲ處理ス
- (七) 委員會ハ主席委員及各政府ノ必要ト認ムルトキ之ヲ提議シ隨時開會ス
- (八) 委員會閉會中ハ輕易ナル事項ニ關シ常任委員會ニ於テ委員會ノ業務ヲ代行ス
- (九) 委員會及常任委員會ノ議事ハ主席委員全員ノ賛成ヲ得ルニアラザレハ議決スルコトヲ得ス
- (十) 事務局長ハ主席委員ノ命ヲ受ケ事務局ノ職員ヲ執轄シテ聯合委員會ニ歸スル事務ヲ處理ス
- (十一) 聯合委員會ニ與スル經費ハ各政府ニ於テ之ヲ分擔ス
- (十二) 聯合委員會ノ權限左ノ如シ
  - (一) 委員會ハ臨時維新兩政府ノ交通、通信、郵務、金融、海關、賦稅、鹽務、文教及思想對策等ノ内閣制ヲ受スル事項ニ關シ協議ヲ行フモノトス

0661

- (二) 聯合委員會ニ於テ議決スル事項ハ其性質ニ應ジ聯合委員會若クハ各政府ニ於テ之ヲ執行スルモノトス各政府ニ於テ執行セラル事項ハ之ヲ聯合委員會ニ報告スルモノトス
- 第四、聯合委員會指導機關
- 一 北支及中支政務指導機關ハ對交特別委員會ト密接ニ連繫シ聯合委員會ヲ指導ス
- 二 之ヲ爲右政務指導機關主任者ヲ以テ隨時連絡會議ヲ開催ス
- 三 聯合委員會及同事務局ノ事務指導ノ幹事役ハ北支政務指導機關之ヲ擔任スルモノトス
- 四 聯合委員會及臨時維新兩政府ハ聯合委員會ノ開催、議案ノ提出及其議決ノ執行等ニ方リテハ豫メ其他政務指導機關ノ諒解ヲ得ルモノトス
- 五 聯合委員會及同事務局ノ指導ニ關スル重要事項ハ豫メ中央ノ認可ヲ受クルモノトス

0662

帝國政府聲明

(昭和十三年十一月三日)

今ヤ、陛下ノ御稜威ニ依リ、帝國陸海軍ハ克ク廣東、武漢三鎮ヲ攻略シテ、支那ノ要域ヲ戡定シタリ。國民政府ハ既ニ地方ノ一政權ニ過キズ。然レドモ同政府ニシテ抗日容共政策ヲ固執スル限リ、コレガ潰滅ヲ見ルマデ、帝國ハ斷ジテ矛ヲ收ムルコトナシ。帝國ノ冀求スル所ハ、東亞永遠ノ安定ヲ確保スベキ新秩序ノ建設ニ在リ。今次征戰究極ノ目的亦此ニ存ス。コノ新秩序ノ建設ハ日滿支三國相携ヘ、政治、經濟、文化等各般ニ互リ互助連環ノ關係ヲ樹立スルヲ以テ根幹トシ、東亞ニ於ケル國際正義ノ確立、共同防共ノ達成、新文化ノ創造、經濟結合ノ實現ヲ期スルニアリ。是レ實ニ東亞ヲ安定シ、世界ノ進運ニ寄與スル所以ナリ。

帝國ガ支那ニ望ム所ハ、コノ東亞新秩序建設ノ任務ヲ分擔センコトニ在リ。帝國ハ支那國民ガ能ク我方眞意ヲ理解シ、以テ帝國ノ協力ニ應ヘムコトヲ期待ス。固ヨリ國民政府ト雖モ從來ノ指導政策ヲ一擲シ、ソノ人的構成ヲ改替シテ更生ノ實ヲ擧ゲ、新秩序ノ建設ニ來リ參スルニ於テハ敢テ之ヲ拒否スルモノニアラス。

帝國ハ列國モ亦帝國ノ意圖ヲ正確ニ認識シ、東亞ノ新情勢ニ適應スベキヲ信ジテ疑ハズ。就中、盟邦諸國從來ノ厚誼ニ對シテハ深クコレヲ多トスルモノナリ。

推シテ東亞ニ於ル新秩序ノ建設ハ、我が榮國ノ精神ニ淵源シ、  
 コレヲ完成スルハ、現代日本國民ニ課セラレタル光榮アル責務ナ  
 リ。帝國ヘ必要ナル國內諸般ノ改新ヲ斷行シテ、愈々國家總力ヲ  
 擴充シ、島嶼ヲ排シテ新業ノ達成ニ邁進セザルベカラズ。  
 茲ニ政府ヘ帝國不動ノ方針ト決意トヲ聲明ス。

0664

日文新關係調整方針ニ付御前會議ニ關スル件

昭和十三年十一月二十八日  
五 相會議 決定

今次事務處理ノ根本方針ニ付キマシテハ一月十一日ノ御前會議ニ於テ決定セラレ且其後ノ情勢推移ニ伴フ措置ニ付キマシテハ其都度内奏致シマシテ所テ御座イマスガ此際日支新關係調整ノ準據ヲ定ムル必要ガ御座イマスノテ茲ニ案ヲ具シ御決定ヲ御願ヒスル次第ヲ御座イマス

0665

日支新關係調整要綱ニ關スル御前會議次第

昭和十三年十一月三十日宮中御學問所ニ於テ開會。參謀總長官殿下、領令部總長、平沼樞密院議長、總理、

外務、大藏、陸軍、海軍、內務各大臣、參謀次長。午前十時半總理大臣ハ陛下ノ御前ニ進出シテ陛下ノ命ニ依リ本日

ノ議事整理ニ當ル可キ旨ヲ言上シテ復席次ヲ議案ハ外務大臣ハ議案ニ

テ説明セシム可キ旨ヲ述ベ外務大臣議長ノ意見ノ開示ヲ求ム右ノ

付テ參謀總長官殿下位ニ平沼樞密院議長ヨリ別紙ノ如キ意見ノ陳述アリ右ニ對シ統

帥關係ニ付テハ參謀總長代理トシテ參謀次長ヨリ一般政務ニ付テハ外務、大藏、內務各大臣ヨリ夫々答辨シ最

後ニ總理大臣ヨリ議案可決セラレタル旨ヲ奏上ス

陛下入御

十一時五十分頃閉會

樞密院議長陳述ノ意見ニ對シ外務大臣ヨリ答辨セル要領左ノ通

一蒙疆ニ付テハ防共ノ目的ヲ外ニスルモ強度ノ自治ヲ認ムル必要

アリトノ點ニ付テハ議長ノ意見ノ如ク蒙疆ハソノ區域內ニ居住

スル民族ノ希望ヨリ云フモ亦滿州國ト隣接スル關係ヨリ云フモ

強度ノ自治ヲ認ムル必要アリ防共云々ト云ヒシハソノ中ノ最モ

0666

一 治外法權租界ノ問題  
 コトハ勿論ナリ又租界返還ノコトモ日本單獨返還ノ趣旨ニシテ  
 ラズンテ日本返還ノ場合ニハ歐洲諸國ヲシテモ之ニ追隨セシ  
 ムル如ク仕向ケタル後ナル可キハ論ヲ待タズ  
 二 支那ニ於ケル經濟問題ノ取扱方ニ付テハ調整要綱ノ各條殊ニ  
 經濟問題ノ取扱方ニ付テハ長ノ意見ニ對シテハ東亞新秩序  
 建設ノ見地ヨリシテ政府ニ於テ之ヲ遂行スル決意ヲ有スルコ  
 トハ勿論ナルモ之ヨリ生ズル甚ダシキ國際摩擦等ハ出來得ル  
 限り之ヲ避クル方法ヲ執ル可キハ勿論ニシテ調整要綱ニ掲  
 ルモノハ緩急難易ヲ考ヘテ之ヲ處理スル積リナリ殊ニ經濟關  
 係ニ付テハ要綱末段ニ掲ゲアル如キ方針ニテ臨ム所存ナルハ  
 經濟對鎖ノ他最悪シ場合ヲ避ケ得ル積リナリ又避ケ得ル如  
 クシテ行カネバナラズト信ズ  
 尙大藏大臣ヨリ歐米對策ニ付テハ結局生産擴充ニテ行クヨリ  
 他ニ途ナシト考フルモ生産擴充モ自ラ時ノ問題ナレバソノ間  
 ハ外務大臣ノ述べタル如ク英米等ニ依ル經濟制裁ハ出來得ル  
 限り之ヲ避クル如ク措置セザル可カラズト考ヘル旨答へ内  
 務大臣ヨリハ將來更ニ取締ヲ嚴重ニシテ善處スル決心ナリト  
 述べタリ

0667